

道徳WG 審議に当たり取り扱った事例

目次

各教科等との連携に関する事例	pp. 3-6.
学校教育全体を通じた道徳教育に関する事例	pp. 7-9.
複数時間に関する事例	pp. 10-13.
問題解決的な学習、体験的な学習に関する事例	pp. 14-23.
デジタル基盤の活用に関する事例	pp. 24-35.

各教科等との連携に関する事例



道徳科と各教科等との連携事例①

小学校5年生

環境を守る実践につながる道徳科の学習

道徳科×
社会科
特別活動

【主題名】自然の尊さ 【内容項目】自然愛護 【教材名】ひとふみ十年（「小学道徳 生きる力5」日本文教出版）
【ねらい】自然の偉大さを知り、自然環境を大切にしようとする心情を育てる。

- 道徳科では、導入で、**移動教室等での体験を想起しながら自然の尊さへの関心を高める**ことができるようにした。また、展開や終末では、教科書の教材をもとに、**移動教室や学級活動でのリサイクル活動等を踏まえて考えを深める**ことができるようにした。
- その後、社会科で自然を扱う際に道徳科での学習を紹介するとともに、**道徳科を要とした学びが、リサイクル活動の継続化や、その成果を他学級等に紹介する活動**などの**道徳的実践につながった**。

特別活動（学級活動）【5月】

「身の回りのものを大切に」

→児童発案によるリサイクル活動（合意形成）

特別活動（学校行事）【9月】

「女神湖移動教室」

→環境を守ることの大切さや後世に残すためにどうすればよいか学習

社会科【1月】

「私たちの生活と自然」

→森林には様々なはたらきがあることや森林資源は様々な立場の人やボランティアの協力によって守られていることを学習

【道徳的実践につながっている児童の姿】

→リサイクル活動の継続化、成果の他学級等への紹介

実践をもとに考えを深める

学びに活かす

道徳教育の要としての道徳科【10月】（16単位時間目／35単位時間）

導入

- **移動教室での体験**について話し合う。

【発問】
移動教室でたくさんの自然に触れてどんなことを感じましたか。

展開

- 教材「ひとふみ十年」を読み、話し合う。
【発問】
高山植物の上にこしを下ろして注意された勇はどのようなことを思ったでしょう。
→自然環境は大切であることは分かっているにもかかわらず、大切なことができない人間の浅はかさや弱さ、難しさを考えられるようにする。（自己内葛藤）
【発問】
松井さんから「ひとふみ十年」という言葉を聞いて勇はどんなことを思っていたでしょう。
→小集団による話し合いを通して、安易に自然を壊していたことを自覚し、自然の偉大さについて考えられるようにする。（多面化・多角化）

終末

- 身近な自然や移動教室で体験したことをもとにしながら、自然を大切にすることについて考える。
→多面的・多角的な視点から考えられるようにする。



道徳科と各教科等との連携事例②

中学校3年生

修学旅行と関連付けた伝統文化の学び

道徳科×特別活動

【主題名】日本の伝統文化を後世に 【内容項目】我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

【教材名】障子あかり（「中学道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書）

【ねらい】日本固有の優れた伝統や文化に関心をもち、理解を深めるとともに、それを尊重し継承・発展させようとする心情を育てる。

- **修学旅行での体験や以前の道徳科の授業で学んだ日本や海外の事例を関連付けて、「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」への理解を多面的・多角的に深めることで、伝統や文化を継承しようとする心情を育てるとともに、そのために自分ができることについて考えを深める。**

① 道徳科

【教材名】「帝釈天の左足」

【内容項目】我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

→日本の伝統文化が持つ特色に気付き、それらを創作した人々の思いに共感し受け継いでいこうとする意欲や態度を育てる。

② 特別活動（学校行事）

修学旅行

→修学旅行で訪れた京都・奈良で神社・仏閣を訪問し、日本の伝統文化に直接接することで興味や関心を高める。

③ 道徳科

【教材名】「サグラダ・ファミリア-受け継がれていく思い」

【内容項目】感動、畏敬の念

→人はどのようなものに心を動かされ感動するかを考え、美しいものや気高いものを感じる心を大切に育てる。

④ 道徳科

導入

②修学旅行で京都・奈良を訪問した体験を振り返り、多くの外国人観光客が訪れていた理由を考える。

展開

【発問】日本の文化が大切にしていることはどのようなことだろう。
●①の道徳科の学習を振り返りながら見えない部分に込めた作者の気持ちを思い出しつつ、日本文化の特色の理解を深める。
●③の道徳科の学習を振り返りながら多様な感じ方や考え方に触れ、感動し受け継ごうとする思いを多面的・多角的に考える。
【発問】日本の文化が大切にしているものをどうすれば継承していけるのだろう。

終末

日本の伝統や文化を継承していくために、自分ができることについて考えをまとめる。

関連付ける



道徳科と各教科等との連携事例③

加賀市立片山津中学校

対話の文化を学校に創る

道徳科×特別活動

- 民主的な社会の創造に向けて、その基盤となる対話する力を育てるため、道徳科や特別活動等において対話経験を積むことを重視している。
- 毎週の道徳科の授業において、生徒が内容項目を手掛かりに対話を経験できるよう、校内研修では教師自らが対話を経験し、授業づくりに活かしている。
- 例えば道徳科の授業では、「友情、信頼」に関わる登場人物の生き方を自分なりの言葉に落とし込んで対話し、その経験を活かしながら特別活動でも対話の経験をする。学校行事の体育祭の準備では、「どんな体育祭にしたい？」という問いから対話を通じて言葉の意味に対する共通理解を深めていき、多様な意見を包摂しながら、合意形成を図る。
- こうした取組を通じて、生徒を対象としたアンケート調査では、「学級のみんなに関わることは、自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめてから決めている」という質問項目への肯定的な回答割合が約71%から約80%に増加した。



道徳

友情、信頼に関わる対話を経験



特別活動

体育祭の準備でも対話を経験

特別活動

どんな学校行事にしたいか、という問いで対話し、自分たちなりの答えを見出しながら合意形成を図る

(例)「どんな体育祭にしたい？」
→「全員が楽しめる体育祭」

道徳

「友情、信頼」に関わる登場人物の生き方を考え、議論し、自分なりの答えを見出す

(例)「よりよい人間関係」とは？
→「相手を信頼しながら本音で向き合うこと」

学校教育全体を通じた道徳教育に関する事例



学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践事例①

高等学校

道徳教育推進教師が中心となり学校行事を活かした道徳教育

推進教師

道徳教育推進教師が、中学校の道徳教育との円滑な接続を意識した教員研修を企画・運営したり、各学校行事を見直して道徳性を養うことにつながる工夫・改善を進めたりしたことにより、教員の道徳教育の重点目標の共通理解や意識の向上が図られ、生徒が人間としての在り方生き方について深く考えることができる学校行事等を年間を通じて実施することができた。その結果、生徒の「相互理解、寛容」「望ましい勤労観・職業観」「公共の精神や社会参画意識」などの道徳性が養われ、安心できる学校づくりにつながった。

重点目標 ウェルビーイングの向上、安心できる学校づくり

具体的な取組

道徳教育推進教師の取組

- 学年や教科のバランスを考慮したメンバー構成による道徳教育推進委員会の設置
- 道徳教育重点目標に基づく教員研修の企画・実施
- 中学校道徳科の内容項目を踏まえた学校行事等の改善

- 多様な外部講師を活用した教員研修の企画・運営
- 中学校道徳科の授業参観の企画
- 道徳教育講演会（感動、畏敬の念等）
- 人とのつながりや協働の大切さを実感できる文化祭の実現に向けた内容の見直し・改善
 - 企業訪問と文化祭展示（勤労、社会参画等）
 - 吃音障害理解のためのカフェ（相互理解、寛容等）
 - 小児がん支援のカフェ（生命の尊さ等）



道徳教育講演会について語る道徳教育推進教師



社会貢献活動に力を入れている企業を見学する生徒
→文化祭での商品展示と試用へ



文化祭における吃音障害理解のための「注文に時間のかかるカフェ」の様子



文化祭における小児がん支援のための「レモネードスタンド」の様子

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践事例②

高等学校

年間指導計画において特活や探究と関連付けた道徳教育の推進

推進教師

道徳教育推進教師として、既存の学校の教育活動全体を道徳教育の視点から見直し、各教育活動と道徳的価値との関係を整理して年間の計画として可視化したことにより、教員の共通理解と専門性の発揮が促され、特別活動や総合的な探究の時間を中心として体験活動の充実や地域社会との連携を重視した道徳教育の充実を図ることができた。それらの取組において、生徒が自己の在り方生き方を考え、社会参画意識や公共の精神、地域を愛する態度、共感する力や思いやりの心などの様々な道徳性を養うことにつながった。

重点目標 自他の尊重、奉仕の精神、地域貢献

具体的な取組

道徳教育推進教師の取組

- ・道徳教育の視点からの既存の教育活動の見直しと整理による教職員の共通認識の醸成
- ・道徳教育に関する多様な教員研修の企画・実施による教員の専門性の発揮の促進
- ・学校行事や総合的な探究の時間と道徳教育とのコーディネート

- ・総合的な探究の時間を中心とした体験活動と地域との連携の充実
 - 総探での交通安全ポスター、寸劇上映、動画作成
 - 地域住民と生徒による登下校マナー啓発運動の実施
 - 町内会と総合的な探究の時間、美術部との協働の創作活動
- ・学校行事における異年齢集団の交流の促進
 - 体育祭での高校生と保育園児との合同競技開催
 - 文化祭での高校生と保育園児との創作ダンスの演技



地域との連携や異年齢交流について語る推進教師



地域と連携した交通安全への取組の様子



体育祭や文化祭での異年齢交流の様子

複数時間に関する事例

複数時間道徳の実践事例（パターン1：同一内容項目）

広島大学附属東雲小学校

1 教材 1 内容項目の事例①

1 教材

1 内容項目

【主題名】命を大切に生きる

【内容項目】生命の尊さ

【教材名】あなたの時間にいのちをふきこめば

【ねらい】命を大切にすることは、その時間を延ばすだけでなく、その命をどのように使うかという生き方にも関わることに気付き、限りある命を大切に生きてようとする心情を育てる。

1 時間目

日野原さんの生き方を通して「生命の尊さ」について考える

導入

交流・話し合い

まとめ

新たな気付き

教材の読み取り

発問：日野原氏はどのような思いで活動に取り組んできたのだろうか。

→自分の考えを整理

発問：なぜ百歳を超えても活動を続けられたのだろうか。

→グループ内での話し合い
→全体で交流

友達の考えを踏まえた振り返り

日野原氏は自分自身のためだけではなく、次世代につなげる願いを持っていた

2 時間目

考え、議論して「生命の尊さ」について考えを深める

前時の振り返り

議論・話し合い

全体のまとめ

前時の掲示物や教材を再確認

発問：あなたは、自分の命をどのように使いたいと思っていますか。

→自分の考えを端末に記載
→グループ内での話し合い
→全体で交流

本時の振り返り及び二単位時間分の振り返り



複数時間道徳の実践事例（パターン1：同一内容項目）

群馬大学共同教育学部附属中学校

1 教材 1 内容項目の事例②

1 教材

1 内容項目

【主題名】生命を輝かせて 【内容項目】 生命の尊さ 【教材名】燃え盛る炎

【ねらい】難病に向き合い生き抜いた石川正一さんの姿を通して、生命の有限性や連続性を手掛かりにその尊さについて自覚することで、自他の生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

1 時間目

教材等を通じて「生命の尊さ」について
自分なりに考える。

導入

交流・話し合い

まとめ

新たな
気づき

教材の読み取り

発問：オーバードーズに関するニュースの視聴を通し、なぜこのような行為に至るか等、考えよう。
→自分の考えを整理
→グループ内での話し合い
→全体で交流

友達の考えを踏まえた振り返り

命に関する道徳的な問題に対する自分なりの課題を考える。

2 時間目

考え、議論して
「生命の尊さ」について考えを深める

前時の振り返り

議論・話し合い

全体の
まとめ

前時のまとめと新たな気づきの確認

発問：教材の登場人物の立場に立って、「治療を続けるか否か」について考えよう。

→自分の考えを端末に記載
→グループ内での共有・比較
→全体で交流

本時の振り返り及び二単位時間分の振り返り



複数時間道徳の実践事例（パターン2：複数内容項目）

小学校6年生

1 教材 2 内容項目の事例

1 教材

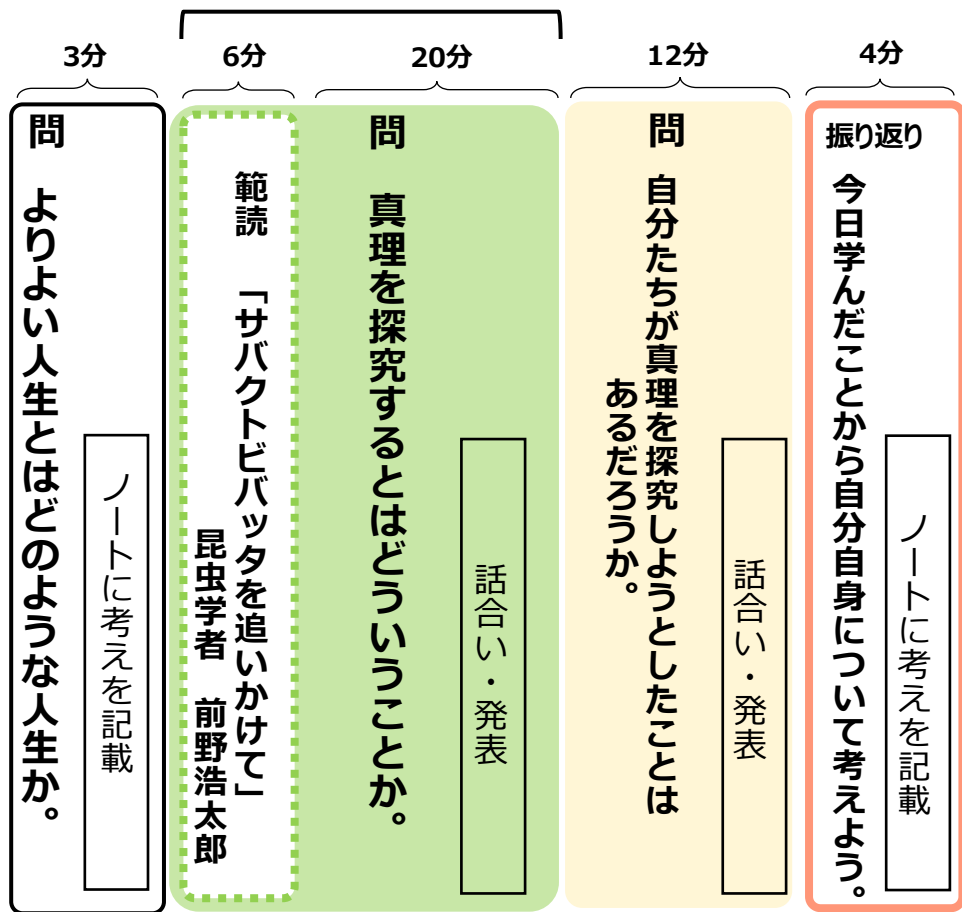
2 内容項目

【主題名】 よりよい人生を目指して 【内容項目】 ①真理の探究、②よりよく生きる喜び 【教材名】 サバクトビバッタを追いかけて

【ねらい】 真理を探究しようとする心や、よりよい人生を送るためにはどのようなことが必要か、何が大切かについて考え、喜びのある生き方につなげようとする心情を育てる。

1 時間目（真理の探究）

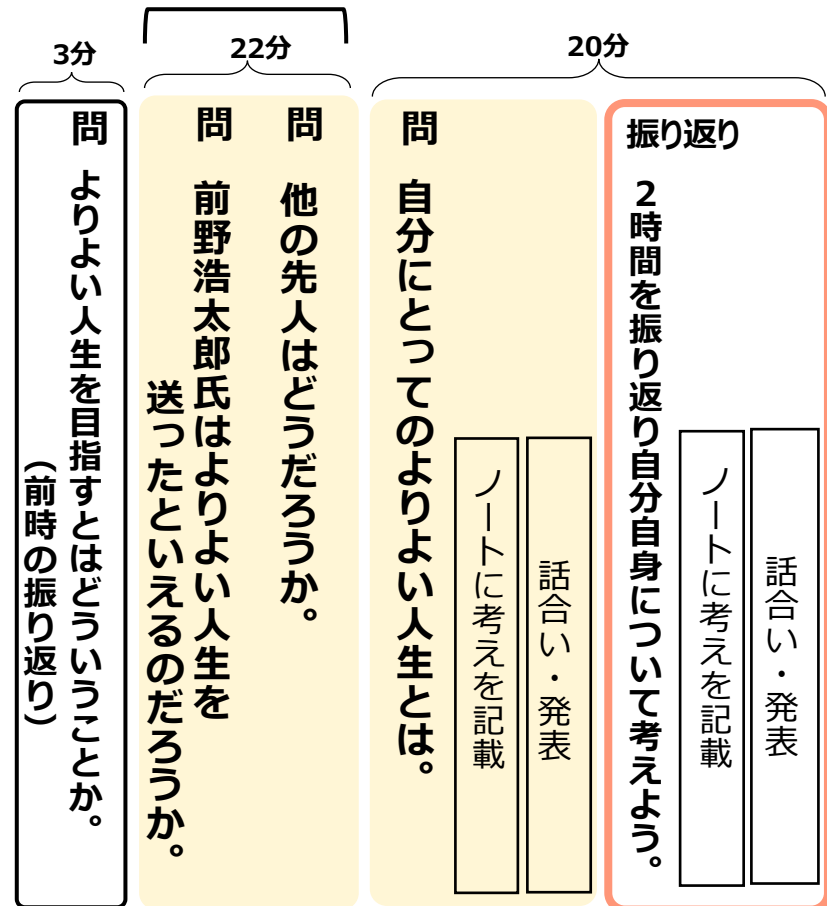
教材理解等に要する時間



2 時間目（よりよく生きる喜び）

※ 下記の構成は各単位時間内の活動の主たる部分を記載したもの。

教材を異なる道徳的価値との関わりで深める時間



問題解決的な学習、体験的な学習に関する事例



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例①

中学校2年生

登場人物と自分の気持ちを往復しながら
生き方について考える

問題解決的な学習
①自己内葛藤

1コマ

【主題名】誇りある生き方 【内容項目】よりよく生きる喜び

【教材名】足袋の季節（中江良夫作）

【ねらい】人間としての弱さや醜さ、強さと気高さに気付き、罪の意識と後悔の念を長年抱えていた登場人物の生き方への共感を通して、よりよく生きたいと願う心情を育てる。

教材中の問題場面を見出し、登場人物と自分の気持ちを往復しながらクラス全体で話し合い、「誇りある生き方」とは何かを考えるとともに、自己の生き方に引き付けてさらに考えを深める。

導入

- 教材の読み取り
- 登場人物の「人としてよくなかったところ」と「人としてよかったところ」はどこか、理由とともに考え、グループで話し合う

→問題意識を持つ

話し合いを通じて、様々な場面での多様な感じ方に触れながら発問についてそれぞれ考えることで、人間の持つ強さと弱さにせまる。

展開

【発問】

おばあさんのところに謝罪に向かったが、すでにおばあさんが亡くなったことを知った私が「泣けて泣けて仕方がなかった」のはなぜだろう。

登場人物と自分の気持ちとを何度も行来しながら、自分だったらどうするか、クラス全体で考えを出し合うことで、より深く多面的・多角的に考える。

終末

- 人間には弱い面、強い面両面あるが、「誇りある生き方」や「自分に恥じない生き方」とはどのような生き方かと思うか、自分の考えをまとめて記入する。

今日の授業を通して自分の生き方と関わり、何を感じたか、まとめる。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例②

中学校1年生

友人関係と誠実さの対立から 誠実な生き方について考える

問題解決的な学習
(②価値の対立)

1コマ

【主題名】誠実な生き方 【内容項目】「自主、自律、自由と責任」×「友情、信頼」

【教材名】裏庭のできごと（日本文教出版）

【ねらい】「誠実さ」が弱さから逃げない心や誇りから生まれることについて理解し、自分の行動に責任をもち、自らを律し、誠実に生きようとする実践的意欲を育てる。

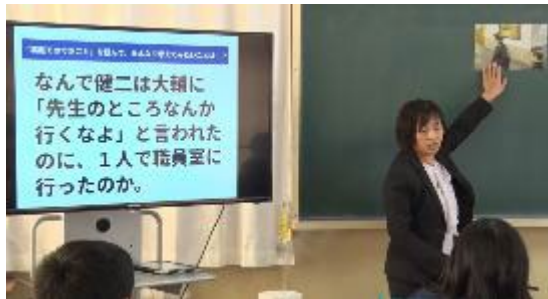
事前アンケートや教材を通して、正直な行動について、**自分事として問題意識を持つ**。その上で、教材の問題場面やその解を考え議論することで、「**誠実な生き方**」の難しさとその意義について考えを深める。

導入

- 嘘をついたことを正直に話すかどうかの事前アンケート結果を共有する。
- 生徒自身が考えたい問題を設定する：
（例）なぜ健二は一人で職員室に行ったのだろう？

→問題意識を持つ

友達からの忠告を聞かず、先生に正直に事実を話すために一人で職員室に行った健二の行動について、自分との関わりで考え、ねらいとする価値にせまる。



展開

- 登場人物のそれぞれの言動と人間関係を整理し、問題だと感じる場面での気持ちを考える。
- 自分が健二の立場だったらどのように行動するか考え、結果を集約して全体で共有し、理由を発表する。

登場人物の気持ちと自分の気持ちとを何度も行き来しながら、クラス全体で多面的・多角的に考える。



終末

- 「友人関係」と「正直さ」の板挟みの中で悩みながらも職員室へ向かった時の気持ちを考え、クラス全体で交流し、導入時に設定した問題について再度考える。

もし自分が同じような状況に置かれたらどう考え行動するかをまとめ、「誠実な生き方」とはどのような生き方だと思うか、考えを深める。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例③

小学校3年生

意識と行動の矛盾点から
友情の大切さについて考える

問題解決的な学習
①自己内葛藤

1コマ

- 【主題名】友達を大切にすること 【内容項目】友情、信頼
【教材名】同じ仲間だから（「わたしたちの道徳」文部科学省）
【ねらい】相手の気持ちや立場を推し量り、友達のことを理解し信頼することで、友達を大切にしようとする心情を育てる。

事前アンケートを通して、友情に関し、**自身の意識と行動の間に乖離があることを認識し、自分事としての問題意識を持つ**。その上で、教材の登場人物の生き方から、「友達と仲良くすること」は大切だと分かっているにもかかわらず、友達を理解、信頼し仲良くすることの難しさを考え、**議論することによって自己の生き方についての考えを深める**。

導入

- 事前アンケートの結果を示し、「友達を大切にすること」について**意識と行動に矛盾点があることを確認**する。

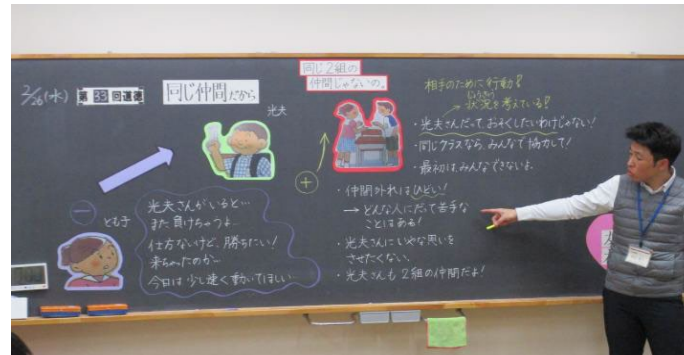
→問題意識を持つ
本時の学習を通じ、「**友達を大切にすることはどういうことか**」について、**考えていくことを確認**する。

展開

- 「同じ仲間だから」を読み、話し合う。
【発問】とも子は、光夫に対してどのような思いを持っていたらう。（自己内葛藤）
- 登場人物の生き方から、**友達を理解、信頼し仲良くすることの難しさについて考える**。
【発問】とも子は、どんな思いで「同じ2組の仲間じゃないの。」と厳しくはっきりと言ったのか。

終末

- 友達を大切にすることは、ということについて再度考え、学習を振り返る。
 - 自分の学級の日頃の様子の中から、**友達を大切にしている場面の動画を視聴**する。
- 友達を大切にすることのよさを多面的・多角的に捉える。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例④

中学校2年生

いじめに加担する人間の弱さから
自己の生き方について考える

問題解決的な学習
①自己内葛藤

1コマ

【主題名】いじめの卑劣さの自覚 【内容項目】公正、公平、社会正義

【教材名】卒業文集最後の二行（私たちの道徳）

【ねらい】いじめる側の自己中心的な論理と、いじめられる側の苦しみについて考えることを通して、差別や偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない態度を育てる。

教材に加え、**いじめに関する新聞報道**を読むことを通して、**様々な角度からいじめ問題をとらえ**、身近に起こりうる課題として認識し、いじめが不公正なものとなつていても**自分を守るためにいじめに加担してしまう人間の弱さを見つめ**、**自己の生き方についての考えを深める**。

導入

- 教材の読み取りや、いじめに関する様々な立場（元被害者、元加害者、保護者など）からの新聞記事の内容に触れる。
- いじめの被害者が置かれている状況を整理する。

→問題意識を持つ

いじめは悪いとわかっているのに、なぜなくなるないのだろう。（自己内葛藤）

展開

【発問】

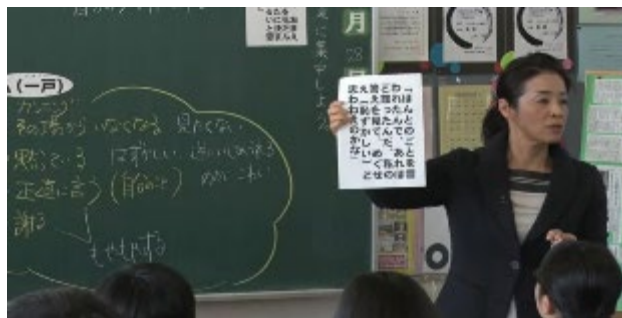
- もしT子さんがいじめられていたらあなたならどうするだろう。
- 主人公は、なぜ一緒になってT子さんを責めたのだろう。

クラス全体で考えや意見を出し合い、主人公の行動の正しさや気持ちの揺らぎについてより深く考える。

終末

- 卒業文集の最後の二行にあった「本当の友達」の「本当の」とはどういう意味か、自分の考えをまとめて記入する。
- 最後の二行が主人公に与えた大いなる「悔い」とはどのようなものか考える。

差別や偏見について自分が感じたことや考えたこと、自分はどのように在りたいかをまとめる。



※道徳教育アーカイブ掲載事例より

問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑤

小学校2年生

役割演技を通じて 道徳的価値について多面的・多角的に考える

体験的な学習
(役割演技)

1コマ

- 【主題名】誰にでも同じように 【内容項目】公正、公平、社会正義
【教材名】およげないりすさん（わたしたちの道徳）
【ねらい】相手の気持ちを考え、誰にでも同じように接しようとする態度を育てる。

仲間はずれや不公平をしないことについて、児童が自分との関わりで考えることができるようにするため、役割演技を取り入れ、ねらいとする道徳的価値に関わる諸問題について、多面的・多角的に考えを深める。

導入

- 公正、公平、社会正義に関して、事前アンケートの結果を確認する。
- 【アンケートの内容】
- 仲間はずれを見たことがあるか。
 - 不公平だなと思ったことがあるか。

→問題意識を持つ
児童が本時に扱う内容を、より自分事として捉えられるようにする。

展開

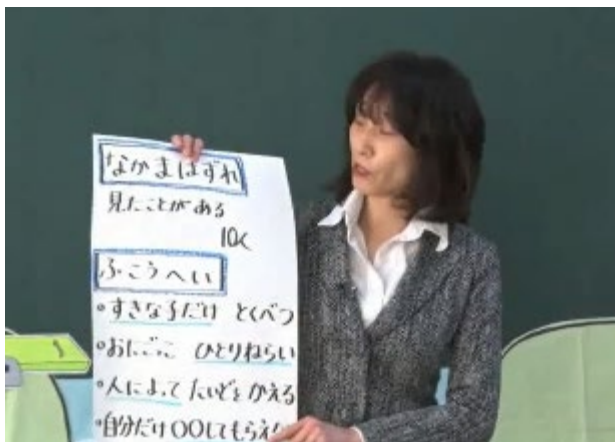
- 「およげないりすさん」を読み話し合う。
- 【発問】
島に行っても楽しくないとき、どんなことを考えていたのだろうか。
- 役割演技を通じて考える。

役割演技をしている児童だけの活動とならないよう、見ている児童にも考える視点を提示。
道徳的な問題を全員で多面的・多角的に考えを深める。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 誰にでも同じように接することのよさについて自分なりに感じたこと、考えたことをまとめる。

導入での事前アンケート結果と本時の学習を基に再度道徳的な問題について自分との関わりで考えを深める。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑥

中学校2年生

対立する立場のそれぞれの考えから
自我関与を促し、考えを深める

体験的な学習
(パネルディスカッション)

1コマ

【主題名】他者から謙虚に学ぶ姿勢 【内容項目】相互理解、寛容

【教材名】言葉の向こうに（私たちの道徳）

【ねらい】自分の持つ考え以外にも様々な考えがあることに気付き、人と関わり合うため、互いの立場や意見、考えを尊重し、他者の意見も認めて素直に受け入れる謙虚さを持って、他に学んでいこうとする道徳的心情を育てる。

場面を再現したのち、パネルディスカッション形式で「受け入れられる立場」と「受け入れられない立場」に分かれ、それぞれの立場で感じたことや考えたことを話し合うことで自我関与を促し、自己の生き方についての考えを深める。

導入

- 自分が登場人物なら、アドバイスを受け入れられるかどうか心情メーターを用いながら交流する。

→問題意識を持つ

各自の微妙な心情の状態を可視化し、そう示した理由や割り切れない気持ちなどを共有し、問題意識を持つ。

展開

- 教材の読み取り
- ネット上での中傷や反論の具体的なやりとりを掲示物で再現【発問】
 - ・なぜ登場人物はひどい言葉で応酬したのだろう。
 - ・なぜ登場人物はアドバイスを受け入れることができたのだろう。

怒りと不安の間を揺れ動く気持ちを想像し追体験しながら、パネルディスカッションで「受け入れる立場」と「受け入れられない立場」に立って考えを深める。

終末

- 改めてグループで感じたことや考えたことを交流する。

異なる意見や考えを傾聴することは、自分にとってどのような価値があるのか、交流を基に自分の考えをまとめる。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑦

中学校2年生

教材に関する体験・交流から、
よりよい社会の実現を目指して生きることを考える

体験的な学習
(動作化、動画)

1コマ

【主題名】よりよい社会の実現 【内容項目】社会参画、公共の精神

【教材名】すべての人に読書の楽しさを（埼玉県道徳教育教材集）

【ねらい】困難にくじけそうになりながらも、すべての人が生きやすい社会を実現しようと前向きに行動する登場人物の姿について話し合い考えを深めることで、よりよい社会の実現を目指して生きようとする心情を育む。

登場人物が、自分たちに直接語りかけてくれたインタビュー映像を視聴することで、登場人物と自分たちとが直接つながっていることを実感しながら、社会に参画することの具体的な意義について考えを深める。

導入

- 教材を読んで考える。
- 実際に目を閉じて、視覚のない状態で動いてみることを体験し、主人公が視力を失った時の気持ちや思いを想像してみる。

→問題意識を持つ

体験を通して感じたことや考えたことをクラス全体で共有し、主人公の抱えていた不安や悔しい思いを考える。

展開

【発問】

- 視力を失っても図書館で働こうとしたのはなぜだろう。
- 主人公の強い思いを支えているものは何だろう。

教材に描かれた主人公の行動や実践の意味を、私たちが生きている社会との関わりで多面的・多角的に考える。

終末

- 主人公に対して教師が直接インタビューした動画を視聴し、教材の中の人自分たちに直接語りかけている映像を観ることで、人柄等も含め主人公の気持ちや思いを追体験する。

主人公が実現を目指す社会や、主人公の生き方から学んだことについて、自分自身の生き方に照らして考えを深める。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑧

中学校2年生

2時間目を効果的に使って深く考える①

問題解決的な学習
(①自己内葛藤)

複数コマ

【主題名】生命を輝かせて 【内容項目】 生命の尊さ
【教材名】燃え盛る炎 (「中学生の道徳2」廣済堂あかつき)
【ねらい】生命の有限性や連続性を手掛かりにその尊さについて自覚することで、自他の生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

1コマ目では、ニュースや教材を基に生命の尊さに関わる諸事象に対して自分との関わりで問題意識を持つことができるようにする。その上で、2コマ目では、難病と向き合う登場人物の生き方を通して、人間の弱さや気高さについて考えを深める。

1時間目 【内容項目】生命の尊さ

導入

課題の確認、
教材の読み取り

展開

- オーバードーズに関するニュースを視聴する。

- 【発問】
なぜこのような行為に至るか考えよう。
- 自分の考えを整理
 - グループ内での話し合い
 - 全体で交流

終末

→問題意識を持つ
生命の尊さに関わるニュースや教材の登場人物の生き方を通して、自分との関わりで問題意識を持つことができるようにする。

2時間目 【内容項目】生命の尊さ

導入

前時のまとめと
自分なりの問題意識の確認

展開

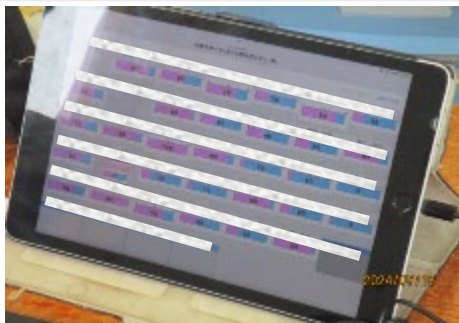
【発問】
教材の登場人物の立場に立って、「治療を続けるか否か」について考えよう。(自己内葛藤)

自分の力ではどうにもならない状況や困難が立ちはだかる中で弱気になってしまうこと、その中でも強く生きようとする気高さについて考える。

終末

- 身近な社会的課題や登場人物の生き方を通して自他の生命を尊重するとは、ということについて感じたこと、考えたことをまとめる。

自分なりの問題意識を振り返り新たな課題や目標を持つ。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑨

中学校3年生

2 時間目を効果的に使って深く考える②

問題解決的な学習
② 価値の対立

複数コマ

【主題名】法やきまりの意義 【内容項目】「遵法精神、公德心」×「思いやり、感謝」

【教材名】二通の手紙（「中学道徳 あすを生きる3」日本文教出版）

【ねらい】立法者の視点を大切にしようとする態度を育てる。

園のきまりを守るか姉弟の思いを大切にするか悩む主人公を通して、法やきまりは、権利や幸せを守るために皆で知恵を出して作られたものであること、それらに従うことも思いやりのある行為であることを複数時間で考え、議論する中で、自己の生き方について考えを深める。

1 時間目 【内容項目】「遵法精神、公德心」×「思いやり、感謝」

導入

法やきまりは必要なのだろうか
↓問題意識を持つ
事前アンケートの確認

交流・話し合い

- 教材を読み、元さんの生き方について考える。
- 【発問】姉弟を入園させた元さんの行動に賛成か、反対か。
- 自分の考えを整理（1回目の判断）
- 【発問】なぜそう考えたか。
- グループ内での話し合い
- 全体で交流

まとめ

- 話し合いを振り返り、自分の考えを整理（2回目の判断）
- 新たな問題意識
主人公の生き方に対する判断は正しいのだろうか。
- 次時までには法やきまりの役割や意義について、諸事例を基に調べておく。

2 時間目 【内容項目】「遵法精神、公德心」×「思いやり、感謝」

前時の振り返り

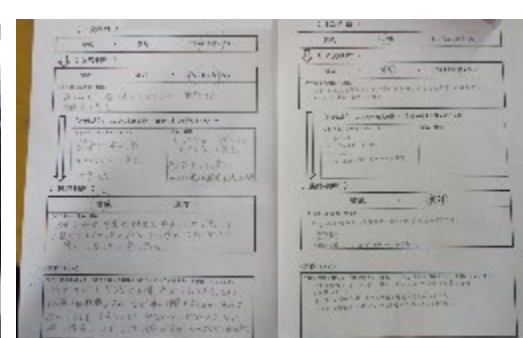
2回目の判断や調べたことを基に新たな問題意識の再確認

議論・話し合い

- 【発問】主人公が大切にしたい生き方は何だったのか。
- 自分の考えを端末に記載
 - グループ内での話し合い
 - 全体で交流
 - 交流後、最終判断（3回目）

全体のまとめ

- 自分なりの判断を基に学習を振り返る。
- ↓
- 対立する道徳的価値について、自分なりの問題意識を踏まえながら振り返り、自己の生き方への目標や課題を持つ。



デジタル基盤の活用に関する事例



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例

一般的な学習指導過程

導入

主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機づけを図る段階。
(中学校解説P86 (以下同じ))

展開

教材によって、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての考えを深める段階。

終末

道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、今後の発展につなげたりする段階。

活用事例

事例① アンケート調査による多様な意見の可視化

可視化

事例② アンケート調査による意見の変容の可視化

可視化

事例③ 過去の自分の考えを振り返り成長を実感

蓄積

事例④ 小規模校同士の遠隔合同授業により多様な意見に触れる

その他 (遠隔)

事例⑤ ファイル共有機能を活用して多面的・多角的に考える

可視化

事例⑥ クラウド上で友達の考えや自身の過去の考えを参照

可視化

蓄積

(再掲：事例④ 小規模校同士の遠隔合同授業により多様な意見に触れる

その他 (遠隔)

AI事例① 生成AIを活用して多面的・多角的に考察し議論する

その他 (AI)

AI事例② 発問への回答案を多数作成し参照して自身の考えを深める

その他 (AI)

事例⑦ 共有範囲の調整により安心して自身の考えと向き合う

可視化

(再掲：事例② アンケート調査による意見の変容の可視化

可視化

事例⑧ 他者との視点の共有・交流から自分ならどうするか考える

可視化

(再掲：事例③ 過去の自分の考えを振り返り成長を実感

蓄積

(※) あくまでも活用事例の1つであり、デジタル学習基盤を活用すること自体が目的化することなく、道徳科における「深い学び」を通じて内面的資質としての道徳性を養うことにつなげられるかが重要であることに留意。

※生成AIは、生徒が自己の考えをしっかりと持った上で活用するということに留意。

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例①

小学校3年生

アンケート調査による多様な意見の可視化

導入

可視化

- 【主題名】信頼しあう友達関係っていいな 【内容項目】友情、信頼
【教材名】絵葉書と切手（「新版 みんなのどうとく3」Gakken）
【ねらい】友達と互いに理解し、信頼し合おうとする心情を育てる。

導入の場面で、学習支援ソフトを活用してアンケート調査を実施し、「友達関係について、振り返ってみましょう」と問いかけ、結果を共有することで、異なる考え方に触れ、児童がねらいに関わる道徳的諸価値について具体的な問題意識を持つことができるようにした。

導入

- 友達関係に関するアンケートを行う。
【アンケートの項目】
- ・ 友達には何でも言える
- ・ 友達だから、言いにくいこともある
- ・ 友達のためを思って悩んだことがある

本時の学習を通じ、「友達とこれからもっと仲を深めていくためにどうすればよいか」ということについて、じっくり考えていくことを確認する。

展開

- 「絵葉書と切手」を読み、話し合う。
- 【発問】友達にどのように返事を書いたらよいか迷ってしまったひろ子はどんな気持ちだったのだろうか。

問題意識を基に登場人物の生き方について、自分との関わりで捉えられるようにする。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 【発問】友達を思って悩んだことや友達を信じて行動してもっと仲良くなれたと感じたことはあるか。
- 登場人物の生き方やこれまでの経験を基に自身の友達関係を振り返る。

お互いを理解し、信頼し合う友達関係を築くよさについて、より深く考えられるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例②

中学校2年生

アンケート調査による意見の変容の可視化

導入
(終末)

可視化

【主題名】社会への貢献

【内容項目】勤労

【教材名】小さな工場の大きな仕事（日本文教出版）

【ねらい】誇りを持って働く家族の姿に接したことで働くことについての考えを変えた登場人物の生き方を通して、それぞれの職業が社会の発展に貢献していることを理解し、自己の将来の生き方について考えを深めようとする実践意欲を育てる。

導入と終末の場面において、アンケート調査結果を可視化し、クラス全体の考えの変容を確認するとともに、他者の意見とその変容も踏まえながら、自分の考えをより深めることができるようにした。

導入

- 働くことに関するアンケートを行う。
【アンケートの項目】
 - ・ 上級学校を卒業後に働きたいか。
 - ・ 「働く」と聞いて何を思い浮かべるか。
- テキストマイニングにより事前アンケートのクラス全体の結果の傾向性を可視化する。

ねらいに関わる道徳的価値について関心や問題意識を持つことができるようにする。



展開

- 「小さな工場の大きな仕事」を読み取る。
【発問】
機械の油で黒く汚れた父の手が誇らしく見えたのはなぜだろうか。
● 家業が誇らしくなった主人公の気持ちの変化について考えを深め、全体で共有する。

導入時に確認した「働く」ことに対する自分の捉えと、主人公の「働く」ことに対する気持ちの変化とを重ねて考え、主人公の気持ちの変化の理由について考えを深めた。

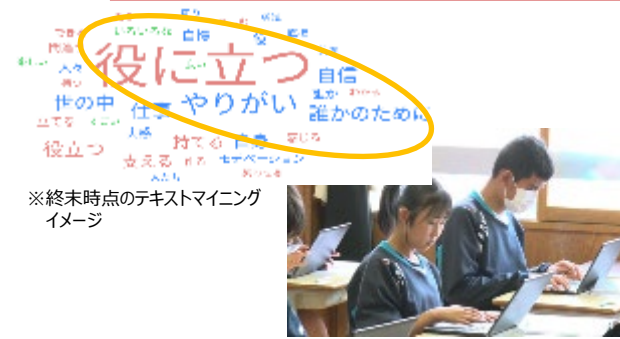
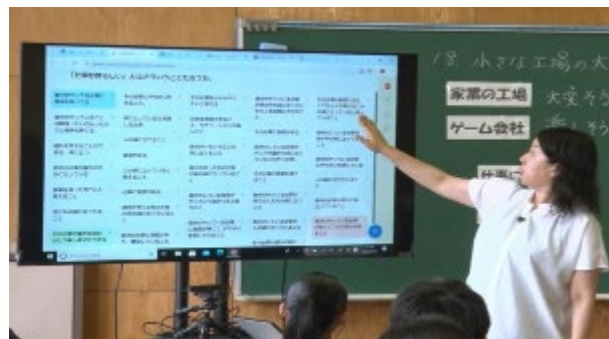
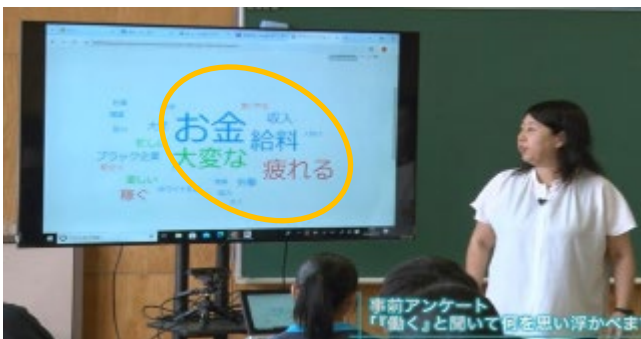


終末

- 再度アンケートを実施し、テキストマイニングでクラス全体の考えの変化を確認。それらを基に自分の考えをまとめるとめる。



将来、働くときに大切にしたいことを他者の意見も踏まえつつ、自分の生き方と関連付けて考える。



※終末時点のテキストマイニングイメージ

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例③

小学校3年生

過去の自分の考えを振り返り成長を実感

導入
(終末)

蓄積

【主題名】がんばる自分をささえる思い

【内容項目】希望と勇気、努力と強い意志

【教材名】「あんぱんの日」－木村安兵衛・英三郎（「新編 新しいどうとく3」東京書籍）

【ねらい】あきらめずに頑張るために自分を支える思いを考え、自分でやろうと決めたことは粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。

導入の場面で、**第1・2学年時の成長の記録を活用**し、成長したと思うことや頑張ったと思うことを振り返られるようにすることで、自身の成長を実感できるようにするとともに、あきらめずに**頑張ろうとする思いが自身に備わっていることに気付く**ことができるようにした。

導入

- あきらめずに頑張ってきた自己の経験を想起する。

【発問】

- 第1・2学年時の成長の記録を見返して、成長したと思うことや頑張ったと思うことは何か。
- あきらめずに頑張る自分を支えているのは、どのような思いなのだろう。

第1・2学年時の成長の記録を活用し、成長への実感を持つことができるようにする。

※成長の記録は、端末を活用してクラウド上に蓄積しておくことも考えられる。

展開

- 「『あんぱんの日』－木村安兵衛・英三郎」を読んで考える。

【発問】

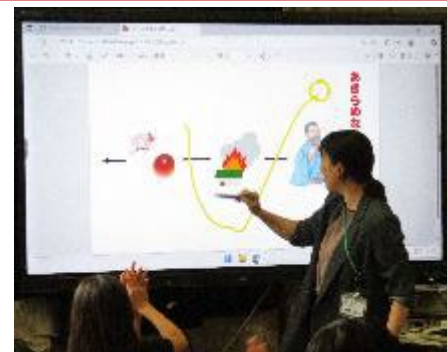
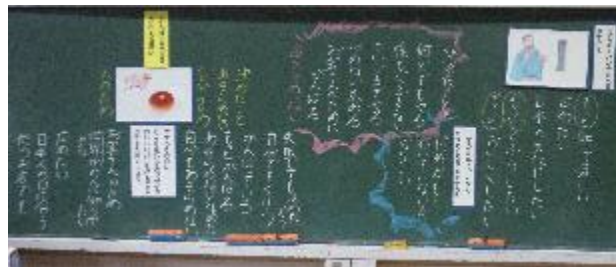
二度目の火事に、力なく焼け跡を見る安兵衛は、どんな思いだったのだろう。

頑張ることに対して消極的な思いは青、前向きな思いは赤で板書に示す。また、葛藤する思いは中間に示し、頑張ることへの思いを多面的・多角的に考えることができるようにする。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 学習してきたことを基に、あきらめずに頑張る自分を支える思いを考える。

ICTを活用して安兵衛の思いの変化を可視化し、振り返りにつなぐことができるようにする。



※【協力】東京都杉並区立杉並第九小学校

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例④

小学校6年生

小規模校同士の遠隔合同授業により多様な意見に触れる

導入
(展開)

その他
(遠隔)

【主題名】広い心で受け入れる

【内容項目】相互理解、寛容

【教材名】銀のしよくだい

【ねらい】相手を許すことよさに気づき、広い心で受け入れようとする実践意欲を育てる。

遠隔合同授業で、展開の場面に、**両校児童が議論する場を設定**したり、児童の立場を大型提示装置に示し、**児童の意識の変化を比較できる**ように提示したりすることで、児童が**話し合い活動を通して、多様な感じ方、考え方に触れ、多面的・多角的に考えを深める**ことができるようにした。

導入

- 教材を読み登場人物が取った行動について考える。

【発問】

(ビデオ通話を通じた両校児童への問いかけ)

助けてくれたにもかかわらず、銀の皿を盗んで逃げた登場人物の行動をどう思うか。

※大型提示装置に挿絵を示す。

展開

- 司教の行動について、自分の考えをワークシートに書く。
- 多様な感じ方、考え方に触れ、自己をより深く見つめる。
- 両校児童で議論する中で考えが変わった児童は、自分の名前を動かす。また、議論する前後の様子を比較画面で示すようにする。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 広い心で受け入れるということについて、司教の生き方や友達の多様な考え等を基に自分なりの感じたことをまとめる。

↓
これまでの自分、これからの自分について考え、ワークシートに記入できるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑤

小学校3年生

ファイル共有機能を活用して多面的・多角的に考える

展開

可視化

【主題名】正しいことは自信をもって

【内容項目】善悪の判断、自律、自由と責任

【教材名】よわむし太郎（「私たちの道徳」文部科学省）

【ねらい】正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。

展開の場面で、端末の座標軸上に、自分の考えが当てはまる場所に好きなマークを書き加え、その後、マークを入れた座標軸を**学習支援ソフトのファイル共有機能を使って共有**することで、**児童が多面的・多角的に考えることができるようにした。**

導入

- 事前アンケート結果を確認する。
- 自分が正しいと思うことについて話し合う。

【発問】

自分が正しいと思ったことを相手に伝えたり、行動に移したりしたことがあるか。



本時のねらいである「正しいと思ったことは、自信をもって行おうとする」と関連付けて考えられるようにする。



展開

- 「よわむし太郎」を読んで考える。

【発問】

殿様の前に立ちはだかっていた太郎は、どのようなことを考えていたのだろうか。



子供が自分の考えを端末の座標軸に書き込み、共有し、友達の考えを視覚的に知ることができできるようにする。



終末

- 教師の説話を聞く。
- 自信を持って行おうとしても実現することが難しいことや、考え方は多様であることを踏まえながら自身の感じたこと、考えたことをまとめる。



事前アンケートと学習したことを関連付けながらねらいとする道徳的価値について振り返ることができるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑥

小学校4年生

クラウド上で友達の考えや自身の過去の考えを参照

展開

可視化
蓄積

【主題名】異なる意見も大切に 【内容項目】相互理解、寛容

【教材名】学級会での出来事（「道徳4 きみがいちばんひかるとき」光村図書）

【ねらい】自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にしようとする態度を育てる。

展開の場面で、児童が自分の考えを端末に入力したり、友達の考え等をクラウド上で参照したりすることができる時間を確保し、さらに、**年度当初からクラウドに道徳科の学習の振り返りを蓄積したり、自身のエピソードを累積したり**できるようにし、それらを本時の学習で活用できるように工夫することで、**自己の生き方についての考えを深める**ことができるようにした。

導入

●自分と違う意見が出た場面の気持ちを確認する。

【発問】

自分の意見が友達と違ってまとまらないとき、どのようなことを考えているか。



本時のねらいである「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にしようとする」と関連付けて考えられるようにする。



展開

●「学級会での出来事」を読んで考える。

【発問】

どのようなことで意見がまとまらなかったのか。

●自己の生き方についての考えを深める。

【発問】

自分と違う考えが出たときどうしていったらいいと思うか。



児童が教師の投げかけから再び自己を見つめたり、友達の考えや自分の過去の考えをクラウド上で参照したりする中で、自己の生き方についての考えを深められるようにする。



終末

●教師の説話を聞く。

●これまでの経験を想起し、今日の学習で見えてきた自分の課題や新たに発見した目標を書く。



教師が言葉のプレゼントをすることで、ねらいとする道徳的価値について、余韻を持てるようにする。



道徳科におけるAIの活用事例①

中学校2年生

生成AIを活用して多面的・多角的に考察し議論する

展開

その他
(AI)

【主題名】希望をもち続け、困難を乗り越えて進む力 【内容項目】希望と勇気、克己と強い意志

【教材名】鳩が飛び立つ日―石井筆子―（「私たちの道徳」文部科学省）

【ねらい】石井筆子の生き方を考える学習を通して希望を持ち続け、勇気を出して困難に立ち向かう価値を深く理解するとともに、高い目標を持ち、それに向けて努力を惜しまない態度を育てる。

展開の場面で**生成AIを活用し、自らの考えを多面的・多角的に考察してからグループでの議論**ができるように工夫し、努力を続けることの大切さを深く考えることができるよう、主体としての自己をより深く見つめることができるようにした。 ※生成AIは、生徒が自己の考えをしっかりと持った上で活用することに留意が必要。

導入

- 教材の時代背景や筆子、亮一の人物像を知る。

明治時代初期の社会背景等を解説し、登場人物の状況をつかむことができるようにする。

展開

- 「鳩が飛び立つ日」を読んで考える。
【発問】
筆子の姿から、どんな気持ちや行動が私たちにとって大切だと思うか。
- 自己の考えを持つ→生成AIを活用し考察（筆子の生き方を通して考えた「希望」、「勇気」、「困難を乗り越える」などの自己の道徳的価値観を単語で入力し、生成AIの回答とを比較検討。）
- グループ協議

生成AIを活用することによって、自己の感じ方、考え方をより確かなものにしてグループ協議に臨む姿が見られた一方、生成AIを活用する際、自己の考えをしっかりと持っていない場合に、生成AIの肯定的な意見を自己の考えと思い込んでしまう懸念があるため、指導に留意が必要。

終末

- 筆子の生き方や友達との議論を通して感じたこと、考えたことなどから自己を振り返る。

端末を活用することにより、自己の生き方についてまとめたことをいつでも振り返られるようにする。



道徳科におけるAIの活用事例②

中学校3年生

発問への回答案を多数作成し参照して自身の考えを深める

展開

その他 (AI)

【主題名】真理を探究する心

【内容項目】真理の探究、創造

【教材名】鉄腕アトムをつくりたい--人工知能研究は人間探究 (「中学道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書)

【ねらい】人工知能研究にける筆者の経験や思いをつづた文章を通して、真理を探究する心について考えさせ、真理や真実を求め、好奇心を持って探究し続ける心情を育てる。

教師が授業準備として、**生成AIを使って発問に対する回答例を10種類作成**する。また、展開の場面では、**生徒がその10種類の回答例を自分の考えと照らし合わせながら四象限で配置し、それを基に話し合う中で人間としての生き方についての考えを深める**ことができるようにした。

※生成AIは、生徒が自己の考えをしっかりとった上で活用するということに留意が必要。

導入

- 「人工知能」開発の現状を知る。
- 「人工知能」について意見交換をする。

→問題意識を持つ
ニュース等の映像で「人工知能」開発の現状を確認した上で意見交換を行い、問題意識を持つ。

展開

- 「鉄腕アトムをつくりたい」を読んで考える。
【発問】
筆者が「人工知能」を研究するのは、どうしてだろう。

- 端末の思考ツールに入力→話し合い

自分なりの考えをまとめた後、**生成AIが作成した10個の回答例を自分の考えと照らし合わせながら、端末の四象限に書き込む。**



横軸：共感するかどうか
縦軸：そういう考えもあると思っていましたか/思っていなかったか

終末

- 「知的な好奇心」や「知的欲求」とはどんな心か、真理を探究、創造し続けるためにどんな思いを大切にしたいか自身の考えをまとめる。

松原さんの生き方や友達との議論を通して感じたこと、考えたことなどから自己を振り返る。

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑦

小学校5年生

共有範囲の調整により安心して自身の考えと向き合う

終末

可視化

【主題名】誠実な生き方

【内容項目】正直、誠実

【教材名】手品師（「小学校道徳の指導資料とその利用1」文部省）

【ねらい】常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

終末の場面で、**学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト活用**し児童が端末に入力した**考えを共有したり、意図的に共有しなかったり**できるようにすることで、児童がじっくりと、**自己の生き方についての考えを深め、率直に表現**することができるようにした。
全児童の内容を端末で確認しながら、**個別に対応する場の設定と時間の確保**をした。

導入

- 事前アンケート結果を確認し、その結果を踏まえながら、正直、誠実に行動することができた経験について話し合う。

導入での学習を終末での振り返りに生かすことができるように、**大型提示装置で投影**する。

展開

- 「手品師」を読んで考える。
【発問】
 - ・ 友人から電話がかかってきたとき、手品師はどんな気持ちだっただろう。
 - ・ 次の日、手品師が男の子に手品を見せている時、どんな気持ちだっただろう。

児童が感じたこと、考えたこと等を端末に**入力**できるようにする。

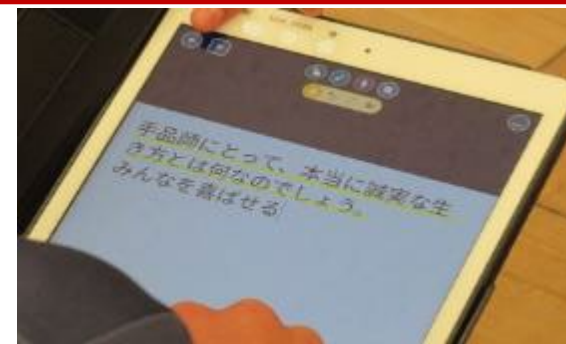
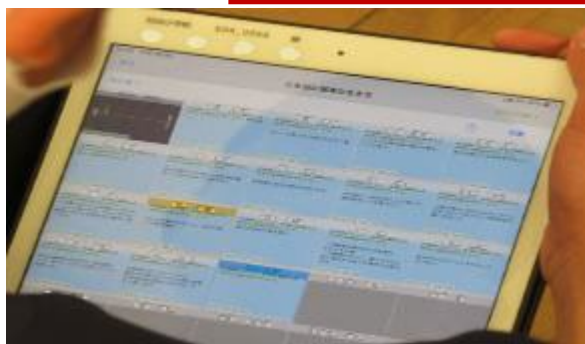
終末

- ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題をみつける。

率直に表現した考えを共有することの可否を本人に確認した上で、**可能な児童のみ、学習支援ソフトのファイル共有機能を使って大型提示装置に投影し学級全体で共有**。児童の多面的・多角的な見方への発展につながるようにする。

- 振り返りの結果を深める。

全児童の考えを端末で把握することによって**意図的に指名し、特定の児童の考えを他の児童に紹介**できるようにする。
毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる**評価の資料としても活用**する。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑧

中学校2年生

他者との視点の共有と交流から自分ならどうするか考える

終末

可視化

【主題名】相互理解のための一歩

【内容項目】国際理解、国際貢献

【教材名】むこう岸には（中学道徳2 光村図書）

【ねらい】お互いに理解し合うために一歩を踏み出した二人の思いを考えることを通して、国際的な相互理解のための一歩を自分から踏み出そうとする実践意欲を育む。

終末の場面でデジタル学習端末を用いて、3つの視点から生徒が考えたことや感じたことをまとめて他者と共有し、それを基に交流することで、授業の終末において道徳的価値について理解を深め、自分ならどうするかを考えるための振り返りを行うことができた。

導入

- 世界で起こっている紛争地域（授業当時）を示した地図を投影する。



授業の内容に関心をもたせる。

- 教材を読み取り、内容を整理する。



これまで川に橋が架かっていなかった理由を考え、教材に対する問題意識を高める。



展開

【発問】

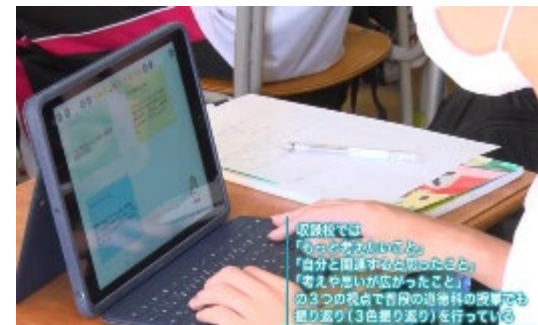
橋のない川に橋を架けたい、という二人の登場人物にはどのような思いがあったのだろう。

- 最初に自分一人で考えを記入し、その後グループで共有する。
- 仲良くしたいという気持ちを持っている人がいるのに、世界中に紛争があるのはどうしてか、考えて再度グループで話し合う。



終末

- 「もっと考えたいこと」「自分と関係すると思ったこと」「考えや思いが広がったこと」の3つの視点から考えたことや感じたことを入力する。
- 記入が終わったら、他者の記入した感想やまとめを読み、自分の考えをさらに深め、発表する。



※道徳教育アーカイブ掲載事例より